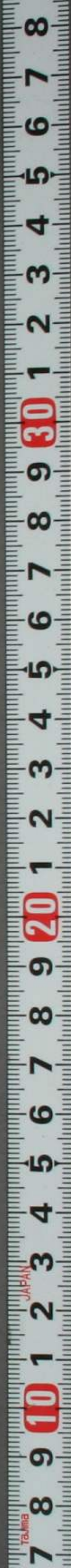
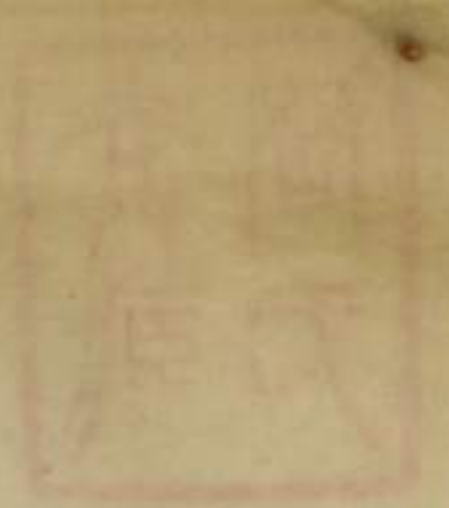


疱瘡紀源論

ヤウ
876

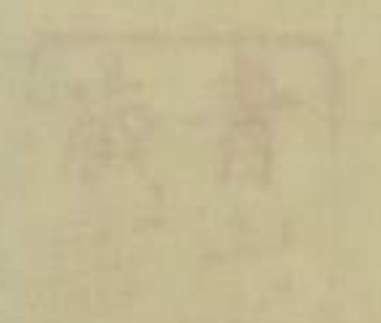


門中武
第 42
卷 876



庖瘡紀源論并治方

趙氏國侯印
蘇曰再傳



夫庖瘡上主侯貴人下主庶民下瘡上及下連

避子車多其補之其毒皆散之擇其輕重

有以重多死也

庖瘡紀源論

全



疱瘡紀源論并治方

越後國蒲原郡卷

藤田正伯述

青山求精堂
藏書畫之記



夫疱瘡ハ上ハ王侯貴人下ハ庶民下賤ハ及ハ追
避ル事多ク稀ク之其毒貴賤ヲ擇リ以テ輕重
あり重ハ多ク死ヲ不免ル予罹此禍害ニ命ヲ
殞者ヲ深ク嘆テ和漢古今ノ書ヲ閱シ病原



多端なるをといへども百歩五十歩の論れり心我潜
 思我覃して古人の書に因て考るに病原の
 理を究るに似しり故に今其梗概を述る已
 凡婦人の胎を受へ所謂經行來て十日の中り
 胎を受く是至當の論れり經行八月有餘の
 血乃脉中より子宮の中に滴て満る時ハ陰戸より



下す無病此婦人ハ一滴も残れ下し盡す有病の
 婦人ハ子宮の中ハ一度惡血を乾す時ハ月々
 經行乾血不粘點て惡血や成て残れ下す事
 能ハ時より男子此精液を宿ハ時ハ惡血精液不
 混して體を成すれり生の後其惡血を五臟の
 中ハ潜伏して時の癘氣不感して疱瘡或

鷓鴣菜 大

大黃 少

紅花 少

右三味水煎三日の中可用鷓鴣菜ハ古代

我邦出生り用る所ゆ故小鷓鴣菜和名

マクリと云也

一 痲瘡流行の節預防の方

紅花

此一味黒霜

一匁

山梔子

一分

右二味水煎て小兒小随て斟酌して可用

一 痲瘡序熱時不論寒熱虚實可與此方

然といへとも小兒の生質虚弱ありて

常小吐瀉或ハ下痢ホの小兒を

不可用之

鷓鴣菜 大

大黃 少

苦楝皮 中

檳榔子少

甘草少

右五味水煎て可用もちふべし疱瘡已あは見點の

時ときハ止やて其餘ハ醫いふ治療ちりょうを請うる

上う下げ記載きざいる疱瘡ほうそうの病原びやうげんハ邊鄙へんひの庸醫ようい

殊ことハ淺學せんがく者ものハ考かうる所ところ也なり處置ちよじハ予よハ

家方けあつ者ものハ親驗しんけんる所ところハ因よて管見くわんけん成なり

省しょうハ東都大醫とうとたいいの電覽でんらんハ供けハ潤色じゆんしきを

乞こふハ俚語りご國字こくじを以もて海内かいだいの萬民ばんみんハ教諭けうごし

其條理そのすだを會得かいとくせハ渴かつハ井いを穿うの

如ごとく忽い諸しよ小せハ右みぎの處置ちよじを用もちて後末こうらい

疱瘡ほうそう者ものハ一人ひとりトハ斃こころる事ことナキ事ことハ淺

庶幾しよき而已のみ

無卷四

于時天保十三年歲次壬寅嘉平月望識之

...

...

...

...

...

...

